

## 平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（京都府）

主食用作付見込面積は1万3,900haの見込み

10a当たり予想収量は505kg（前年産に比べ5kg減少）の見込み

### 1 作付面積

平成30年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万4,700haで、前年産に比べ200haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は1万3,900haが見込まれる。

### 2 作柄概況

- (1) 穂数は、7月以降、高温で経過したことから、無効分げつが増加し「やや少ない」となった。
- (2) 1穂当たりもみ数は、7月以降、高温で経過したことから、出穂が早まり、もみの形成期間が短くなり「平年並み」となった。
- (3) 全もみ数は、穂数がやや少なくなったものの、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「平年並み」となった。
- (4) 登熟は、出穂期以降、8月下旬にかけておおむね気温が平年を上回ったものの、9月上旬以降は気温及び日照時間が平年を下回って推移していることから、「平年並み」が見込まれる。
- (5) 以上のことから、9月15日現在の10a当たり予想収量は505kg（前年産に比べ5kg減少）が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は99となる見込み。
- (6) 作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、南部は513kg（前年産に比べ5kg減少）、北部は496kg（同7kg減少）が見込まれる。
- (7) 被害は、山間部を中心にシカ及びイノシシによる獣害等の発生がみられる。

### 3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は7万200tが見込まれる。

図 作柄表示地帯別の10a当たり予想収量（9月15日現在）



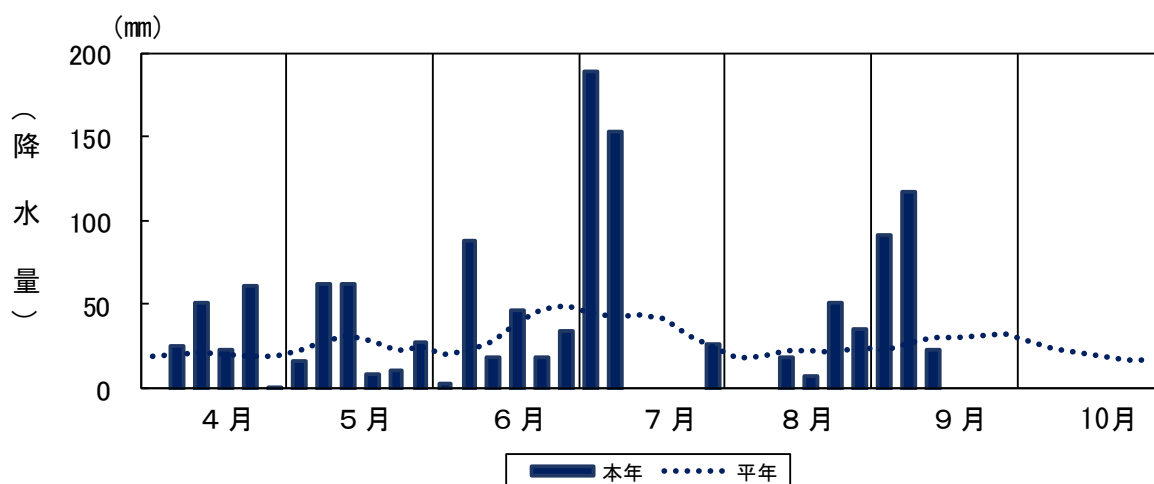
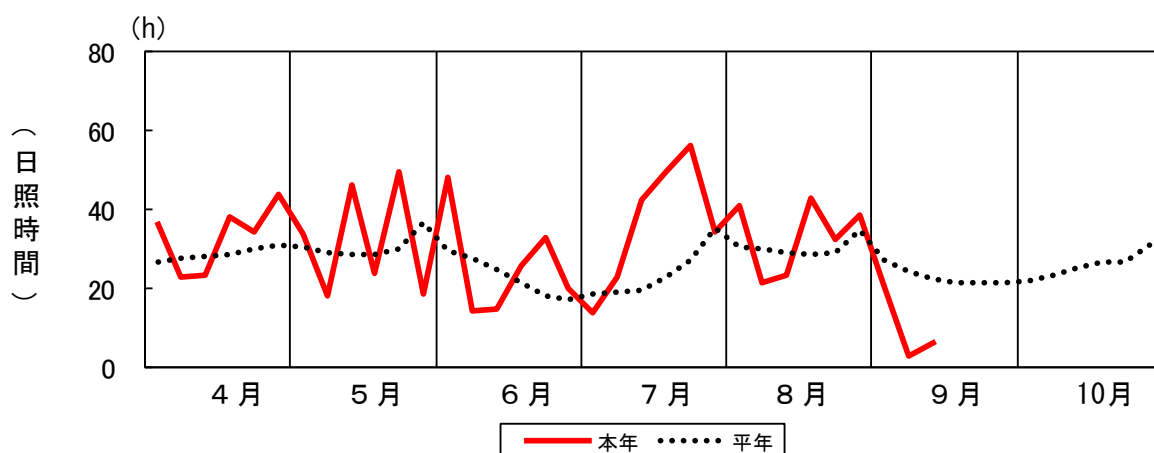
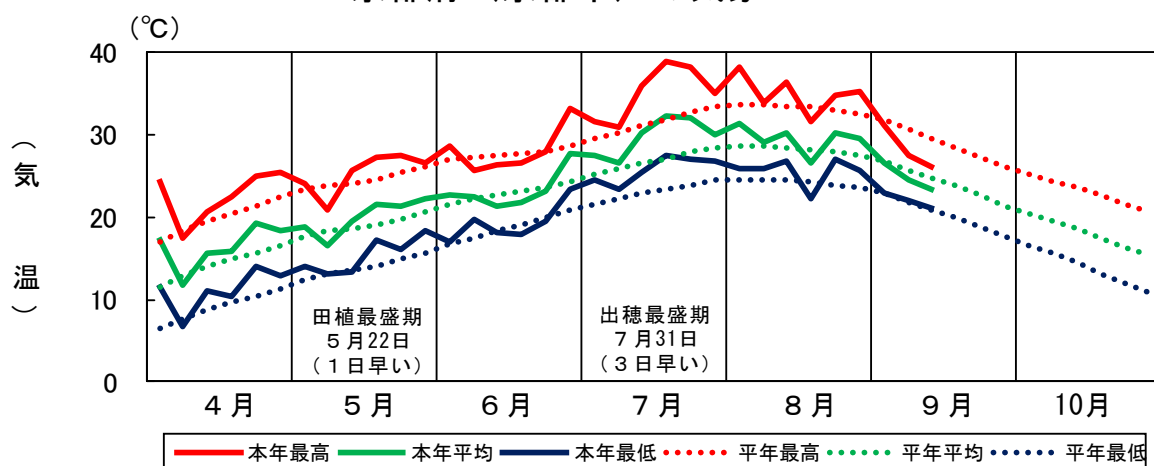
- 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。
- この資料は、「平成30年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（近畿）」（平成30年9月28日公表）の補足資料として作成したものである。

本資料は、近畿農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2018.html> 】

【参考】

京都府（京都市）の気象



資料：気象庁『アメダスデータ』

注：田植期及び出穂期の最盛期は、府平均の期日である。

なお（ ）内は、対平年差である。

【お問合せ先】

近畿農政局 統計部 統計調査チーム（京都府担当）

電 話：（代表）075-451-9161 内線 2664  
（直通）075-366-2005

F A X： 075-451-0079